

## 地盤工学会 JGS 会館電子図書館開設と 3 カ月間の利用状況

地盤工学会調査・研究部

## 1. はじめに

地盤工学会の新館 JGS 会館への移転を機に、地盤工学会では IT 推進委員会を設立し、さまざまな IT 事業を推し進めている<sup>1)</sup>。その中で、調査研究部が計画していた電子図書室についても他の IT 事業との関連の中で検討が行われ、新館開設とあわせて図書室の電子図書室化が実現した。会館内図書室（新館図書室）は移転と同時にオープンし、電子図書室は 4 月 15 日から利用を開始した。以下に、新館図書室と電子図書室（あわせて新館電子図書室と呼ぶ）の概要と開館 3 カ月間の利用状況を報告する。

## 2. 新館電子図書室の概要

新館における図書室は、会員サービスの充実の一環として、「使いやすい、使いたくなる図書室」をめざして開設した。新館 JGS 会館の 1 階に約 70 m<sup>2</sup> の広さの図書室を設け、ゆったりとした空間で図書の検索・閲覧ができるような IT 化を進めた図書室とした。図書室の様子を図-1 に示す。

新館図書室の特徴は、以下に示す点にある。

① どうしても大きなスペースを確保するのが難しいことから、他の学会などの図書館で整理されているものは処分し、地盤工学に関わる図書に特化したことである。このことで蔵書の本数は約 8 600 冊から 4 000 冊へと大幅に整理することができた。

② 地盤工学会が発行し著作権を有する論文集、雑誌、シンポジウム論文集などは、電子化を推進し、開館当初

からすべてとはいかないものの、将来的には地盤工学会発行のものはほぼすべて電子ファイルで保管することを目指している。国際会議の論文集や一般の地盤工学関連図書、地質図など地盤工学会に著作権がないもの、および地盤工学会の発行物でも電子化が完了していないものに関しては、当面は書架での保管とした。それでも、書架の設置面積は大きくなくゆったりした感覚で利用できる。図書室の図書の内容と今後の電子ファイル化の予定を表-1 に示す。

さらに、今回の大きなサービスは Web 上での図書の公開である。

③ 電子化に伴い、Web（地盤工学会ホームページ）上で蔵書の検索が可能な検索システムを導入する。また、当初からすべてではないものの、Web 上から論文などを閲覧しダウンロードできるようにした。図書室にはパソコン端末を複数台設置し、これらのサービスを図書室で受けられるようにしたのはもちろんであるが、図書室に向かなくとも、図書の検索および閲覧、印刷、保存までができるようにすることで、全国の幅広い会員に対して会員サービスの利便性が大幅に向上したと考えられる。また、非会員でも Web 上から図書の検索までができるようにした。この点が新館図書室の大きな特徴といえる。これらのサービスの概念図を図-2 に示す。

## 3. 新館電子図書室の利用状況と課題

電子図書室の開館から 3 カ月に当たる 7 月 15 日までの会館内の図書室利用者数は 75 名である。一方 7 月 15

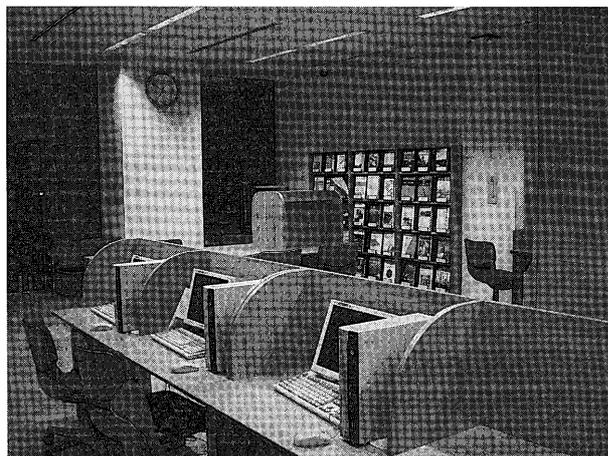


図-1 新館図書室の概観

表-1 図書室の図書の内容と今後の電子ファイル化

図書の種類	冊数	電子ファイル化	冊数
S&F, 土と基礎	100	国立情報学研究所で電子ファイル化作業中	100
シンポジウム	120	H15年度電子ファイル化	180
出版物 研究発表会・報告書	250 670	H16年度以降順次電子ファイル化	920
国際学会関連 地質・地盤図 他社出版物 他社単行本	650 300 800 800	著作権などの問題で当面電子化の対象とはならない	2550

学会活動から

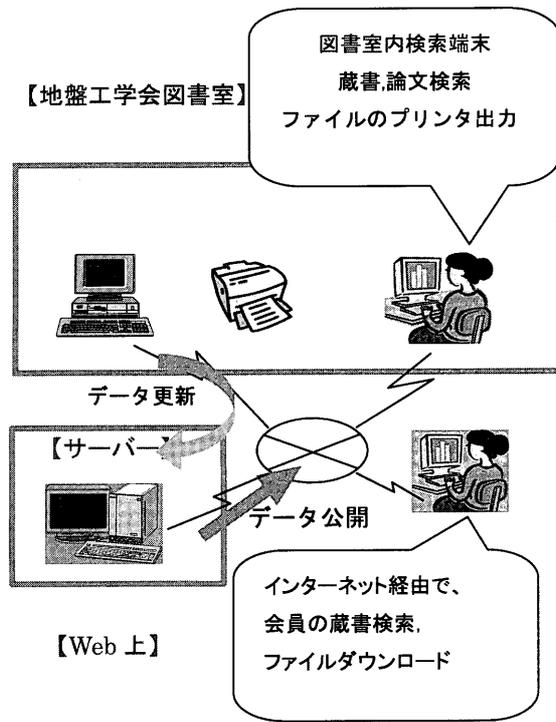


図-2 新館電子図書室のサービスのイメージ

日までの Web 上からの電子図書室へのアクセス数は 867名にのぼる。運用開始当初は目新しさもあって一カ月に約400件のアクセスがあったが、最近では一カ月に約230件前後とほぼ横ばいという状況である。これには二つの課題が在ると考えられる。一つは、電子ファイル化されて公開されているのがまだ委員会主催シンポジウムにとどまっていること、もう一つは、電子図書室の案内のホームページ上での表示である。

電子化に関しては、表-1にも示すように、今後「土と基礎」や S & F, また、研究発表会などに展開していく予定であり、今しばらくご猶予をいただきたい。

電子図書室へのアクセスは、図-3に示すように、学会ホームページのトップページの更新情報「4月15日電子図書室運用開始」をクリックすると、図-4に示す電子図書室のページに移動する。電子図書室の利用方法についてはこのページに丁寧に記載されているので、利用の際にはご一読いただければ幸いである。ただし、独自に図書室の入り口を設けていないことから、更新情報だけでの案内では、時間が経過すると最初の画面では見られず、スクロールしないとたどり着かないようになっている。広く会員の方々に利用していただくには、電子データとしての図書の充実と Web 上での案内をよりわかりやすくすることが課題であり、効率のよい電子化を進めるとともに、案内の表示の改善をはかりたい。(なお、8月からトップページの最初に入り口を設けた(図-5)。これによりアクセス数は飛躍的に増加している。)

4. おわりに

今後、地盤工学会の図書室として最も適した図書シス

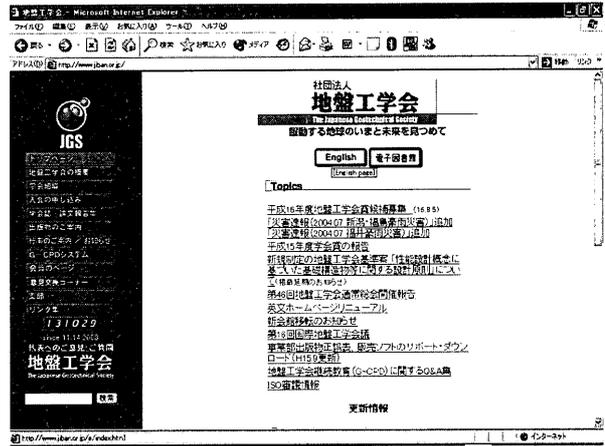


図-3 新館電子図書室の学会ホームページでの案内

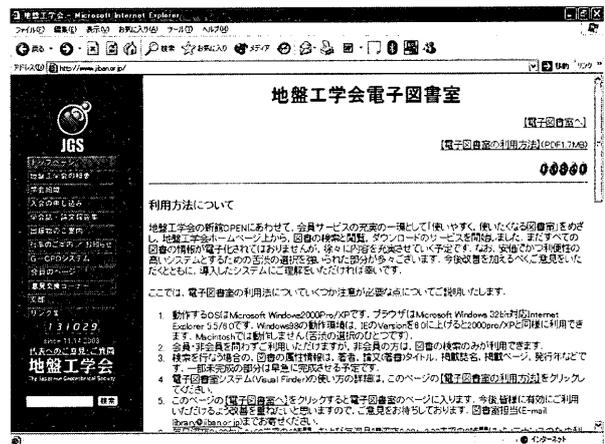


図-4 新館電子図書室のトップページ

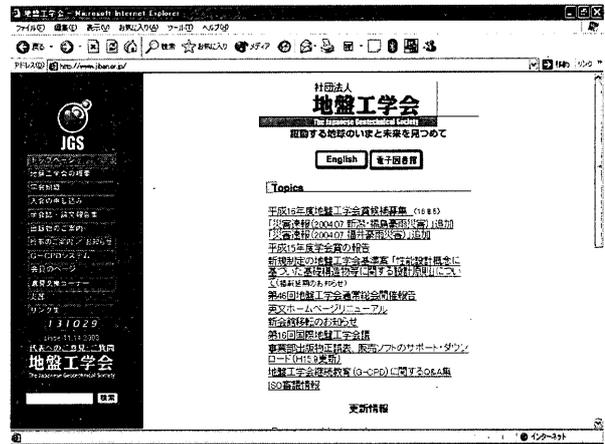


図-5 新たに設けた電子図書室入口

テムとするため、会員各位からのご意見をいただいた上で、会員に役立つサービスとして改善を進めていきたい。

参考文献

- 1) 村上 章・宮田喜壽・三輪 滋：新学会会館における電子会議・講習会遠隔地配信および電子図書室，土と基礎，Vol. 52, No. 2, pp. 37~40, 2003.

(文責：三輪 滋 飛鳥建設(株)技術研究所)

(原稿受理 2004.7.29)